



『オリエンテーション合宿 Etajima Wonder Discovery』



実施報告書

1. 概要

国立江田島青少年交流の家では、令和6年度教育事業として、広島県立大柿高等学校1年生を対象に「オリエンテーション合宿 Etajima Wonder Discovery」を開催した。変化の激しい時代を迎え、はっきりした答えのない世の中を生き抜くために高校生に探究活動を通して深く考える力を身につけることに取り組んだ。

- 趣旨 高校生の体験活動を通じた成長をめざし、新学習指導要領で重視されている探究の手法を用いて課題を発見し、解決策を見出す力・他者と協力し物事を成し遂げる力を身につけさせ、地域や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生の育成を図る。
- 協力 江田島市企画部
津島織物製造株式会社 津島一登氏 瀬戸内いとなみ舎 峰尾亮平氏 江田島市議会議員 美濃英俊氏
学びの館館長 宇根川進氏 広島ラボ COCODEMO 江田島 川森聖也氏
- 期日 令和6年5月27日(月)～11月30日(木)
※交流の家1泊2日宿泊合宿：令和6年5月27日(月)～5月28日(火)
- 参加人数 広島県立大柿高等学校1年生23名

2. 活動内容

(1) カリキュラムについて

本事業ではカリキュラムBでOR合宿を実施した。このカリキュラムでは、地域探究の基礎を学ぶ試行分野と実際に地域に出て、活動を行う実行分野に分かれており、試行分野のカリキュラムの中にあるオリエンテーション合宿を当交流の家主導のもと1泊2日で実施した。試行分野が修了したのち、実行分野を大柿高校主導で総合的な探究の時間を中心に実施した。

R6年度 5/27～5/28大柿高校 地域探究プログラムOR合宿

	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00		16:00	17:00	17:45	18:45	20:00		22:00	22:30
5月27日	大柿高校発	入所OR<講堂>	アイスブレイク<講堂>	ガイダンス<講堂>	昼食休憩	講話・演習等 江田島市企画部企画振興課による講話「江田島市の現状と取組について」演習(案)		自由時間<講堂>	夕べのつどい へA棟へ	宿泊準備	夕食	入浴	演習「江田島の魅力!再発見」発表原稿作り<講堂>	就寝準備	就寝

	6:30	7:00	7:30	8:30	9:00		11:30	12:30	13:00		15:15	15:30
5月28日	起床	朝のつどい	朝食	カッター移動艇	課題解決型カッター研修<カッター研修場> (荒天時)人間関係づくり<講堂>	弁当休憩	退所点検	発表 発表練習 グループで発表<講堂>		退所準備	退所	

(2) 講話「江田島市の現状と取組について」

5月27日(月) 探究活動の導入として、講師に江田島市企画部企画振興課の方を講師として招聘し、江田島市の様々なデータを見せていただき、江田島市の産業や人口などいろいろな現状を知ることができた。



(3) ワークショップ「江田島市の魅力再発見」

5月27日(月) 午後、午前中に聞いた話を基に、江田島市の魅力について、自分たちが興味をもった分野でグループに分かれ、再発見する活動を行った。



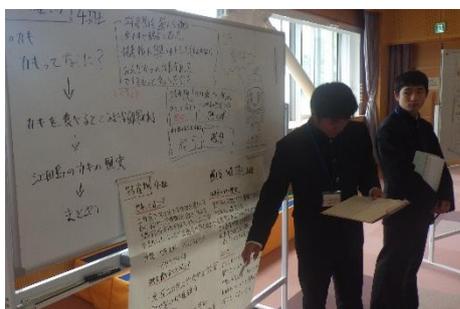
(4) 講義・演習①「地域づくりと探究」

5月27日（月）の午後実施した、「江田島市の魅力再発見」から得られた情報をもとに、江田島市の魅力（テーマ）・発信方法（アイデア）・今後の活動に向けての必要な情報を得るための質問を、KJ法を用いて考えた。どの班も意欲的に、高校生の視点で意見を出しながら活動した。



(5) 発表

5月28日（火）、午前中に各班でまとめた江田島市の魅力についてポスターを用いて、発表会を行った。わかりやすく伝えるため、各グループで発表方法などについて工夫して実施した。



3. 参加者の声・考察

<アンケートより>

(生徒)

○探究活動を通して、江田島の課題や現在の取組について再認識できた。今後の探究活動に向けて、どのように取り組んでいったらよいか、具体的に学ぶことができた。

○今回の活動で、普段では体験できない多くの体験ができました。今回の学びを、色々な場面で生かしたいです。

○今回の合宿を通して、仲間と「協力」「支え合う」大切さを知りました。

○地元である江田島で OR 合宿ができてよかった。江田島をよりよい島にするために、色々なアイデアを友達と出し合って、深めることができた。

(教員)

○体験の中で生き活きと自分のグループのメンバーとの関わり方、まとめ方、意見の表現の仕方など手法を体得していった。

○カッター体験では、前後左右を思いやる気持ちや皆で協力し合える姿を見てとることができて、協力の大切さはもちろんのこと、「より良いもの」を目指すために何ができるか考える力をつけることができた。

上記のように、課題解決方法の習得や、個人や集団の成長についての感想があった。来年度も継続して実施したい意向も伺うことができた。

<課題>

○今年度、施設側が生徒の実態を十分に把握できていない状況でのスタートとなってしまった。OR 合宿前の打ち合わせを4月中に行い、生徒の実態を把握したうえで準備を進めていくことが必要である。

○OR 合宿の目的について情報を共有したうえで、ねらいを焦点化し、学校の役割を明確にして合宿を実施したい。

○OR 合宿後の実践活動で生徒がどのようなゴールを目指しているかやゴールに向けてどのような方法で取り組むか等、学校とゴールへの道筋を共有するために、実践活動時に連携を1か月に1回程度行うことが望ましい。